

「主の復活の恵み」 ローマ 4 : 25

I 「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され」：25。約2千年前の先週の金曜日に、主が、私達の罪（不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、憎しみ、恨み、ねたみ、酩酊、悪い遊興、悪く口、陰口、嘘、ごまかし、不正他たくさん悪）の為に、十字架で私達の身代わりに刑罰を受けて下さった事を感謝します。御父は、御子イエスを心から愛しておられたのに、私達を救う為に、御子を十字架に渡され、御子を見捨てられ、親子の断絶を経験され、私達の罪を正しくさばかれ、私達との和解の道を開かれた事を感謝します。「神殿の幕は真つ二つに裂けた（私達人間の罪の贖いの完了）。イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ（御父と御子の永遠お交わりの回復）。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた」 ルカ23：45, 46。

II 「主イエスは、…私たちが義と認められるために、よみがえられたからです」：25。主は、十字架で死なれ、三日目に死に勝利し、復活された。神をほめたたえます。ガラテヤ2：16には、「キリスト・イエスを信じる信仰によって義（罪が赦され、神の前に正しい者と）と認められる」とある。本日の箇所では、「主イエスは…私たちが義と認められるために、よみがえられた」とある。この意味を見て行きたい。主のよみがえり、復活は、一つの事実を宣言している。主が、十字架の死からよみがえられた事は、神が、私たちの罪の為に主の十字架の死、贖いのいけにえとしての死を、完全に受け入れられた事とするし、宣言である。主が死んだままではない主の復活は、主が、私たちのすべての罪を完全に償われた事実、罪は罪として正しくさばかなければならない神の義のご性質が、完全に満足させられた事とするし、宣言である。もし、神が、主を墓からよみがえらせなかったら、主は、私たちのもろもろの罪への罰を負いきれなかったのだと思われるかもしれない。しかし神は、主をよみがえらせることによって、神は次の事を宣言された→御子が、その御業を完成された事、人間、私達の罪が完全に償われた事、罪は罪として正しくさばかなければならない義なる神ご自身が、完全に、なだめられ、完全に満足しておられる事、主の十字架のいけにえが、完全に神に受け入れられたこと。そうした意味で、主は「私たちが義と認められるために、よみがえられた」のである。私達の罪の贖い、償いは、十字架の上で完了したが、主の復活により、十字架の贖いが、十分なものである、完全なものであると宣言されているのである。

旧約時代は、大祭司（祭司階級の首長、神と人の媒介者、神の前に民を代表して民の罪の贖い儀式をする者）は、年に一度、いけにえとされた動物の血を携えて至聖所に入った。民を代表して、民のもろもろの罪の贖いをする為。大祭司は、その血を「贖いのふた」の上に振りかける（レビ16：14-15）。民は外で皆、待っていた。待っている人々の気にかかる事は、次の事だった。「神は、そのいけにえ、供え物を受け入れて下さるだろうか。この贖罪の血を、受け入れられるだろうか」。それで民はじっと待ち、耳を澄ませた。突然、鈴の音が聞こえる。大祭司の衣のすそにつけられた鈴の音である。それで人々は、大祭司が生きて、出て来ようとしている事が分かり安心する。大祭司の供え物は、受け入れられたのだと。キリストは私達の偉大な大祭司である（「私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか」ヘブル4：14）。キリストは天に入り、ご自分の血を奉げられた。そして、そこに今もとどまっておられる。そして、主が、そこに留まっておられる事実は、神が主と、

主がささげられた供え物（十字架の主ご自身）とを完全に受け入れて下さったことを証明している。主はそこで「いつも生きていて、私たちのために、とりなしをしておられる」（ヘブル7：25）。主は、そこで常に宣告しておられるのである。ご自身が罪責とその罰を身に負われた事を。そこに主が臨在しておられること自体、私たちの為のとりなし（ロイドジョンズ著、「ローマ書講解」参照）。

Ⅲ 主の復活の現在の恵み。現在の私達に働かれる神の力。

「神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知る（頭だけの知識ではなく、心で知る、体験する）ことができますように。神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ」エペソ1：19，20。

「キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです」ローマ6：4

「見よ。わたし（復活された主）は、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます」

マタイ28：20

死に勝利し復活された生ける主は、私達が、どんなに辛い中であっても、私たちと共にいて、私達に力を与え支えて下さる。「私は…あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くして下さる方（復活の主）によって、どんなことでもできるのです（あらゆる境遇に対処できる）」ピリピ4：12，13。復活された主は、私たちの内に生きておられる。

「キリストが私のうちに生きておられるのです」ガラテヤ2：20。キリストは、私達に十分な力と生命力を注ぎ込んで下さる。どんな事が起きても、それに対処する力と判断力を復活の主は、私達に与えて下さる。

Ⅳ 主の復活の将来の恵み。世の終わりの時、主の再臨の時、私達を復活させられる。

「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります」 Iテサロニケ4：16－17